

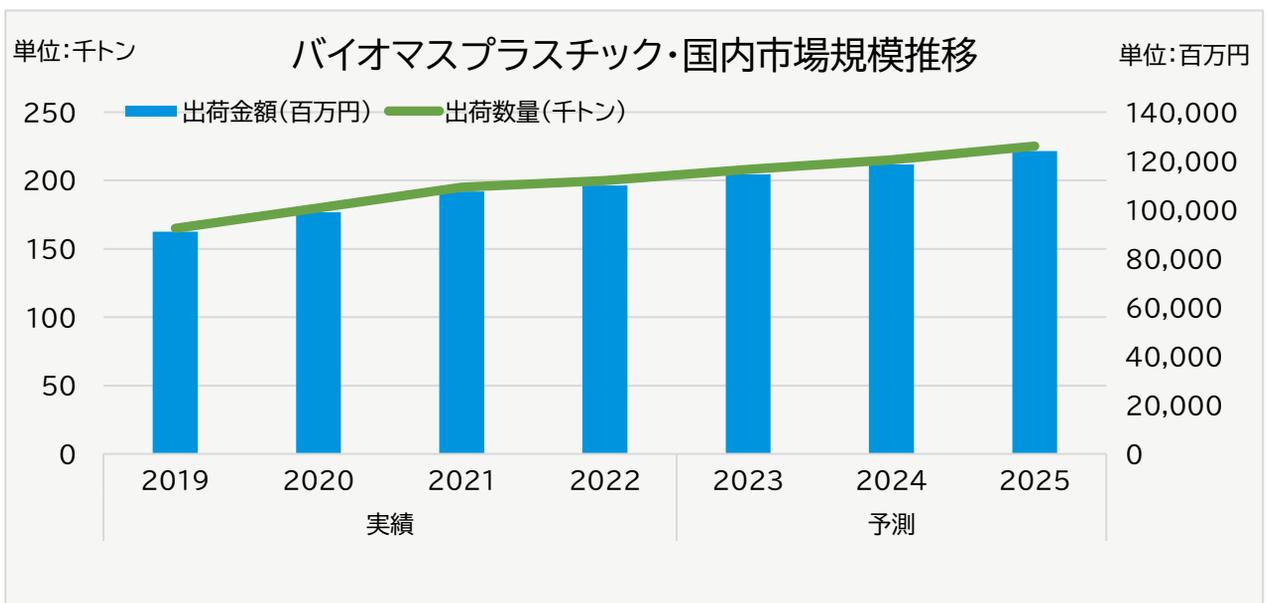
2023年3月15日  
株式会社SVPジャパン

## SVP注目市場分析 「バイオマスプラスチック」を公開 ～CO2排出量やプラスチック廃棄物の削減に役立つ環境にやさしい素材として注目～

会員企業に対して公開情報を用いたビジネス情報提供を行う、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、2023年3月より新たに当社オリジナルコンテンツ「SVPナレッジ」を提供することとなりました。

本日は、SVP注目市場分析レポートの「バイオマスプラスチック国内市場の現状と将来展望」について会員企業向けに公開いたしました。

### ■ バイオマスプラスチックの国内市場



環境省によると、適切に処分されず廃棄されたプラスチック製品が海に流れ着く量は、世界で年間800万トンと試算されており、2050年には海洋にあるプラスチックが魚の総重量を上回るとの試算もある。

バイオマスプラスチックには生分解性を持つものもあり、プラスチック廃棄物の削減にも貢献する。また、焼却処分してもCO<sub>2</sub>の排出量を実質的に削減できるというメリットがあるため、環境にやさしい素材として採用が進んでいる。

## ■ バイオマスプラスチックの市場概況

- ・バイオマスプラスチックは、原料に再生可能なバイオマス（動植物由来の有機資源）を部分的に、または100%使用したプラスチックである。主なバイオマスとして、サトウキビ、トウモロコシ、ひまし油、廃食用油などが使用されている。
- ・レジ袋やスプーンやフォークをはじめ、食品の容器や飲料用PETボトル、土嚢袋や農業用マルチシートなどの資材、電気・電子部品や自動車部品まで、幅広い用途で採用が増えている。
- ・国内の市場規模は、2022年にメーカー出荷ベース約20万トン、1,100億円であったと推定される。種類別には酢酸セルロースがもっとも多く、数量ベースで50%以上を占める。
- ・市場規模の推移として、2020年、21年は大幅な成長となった。要因として、2020年のレジ袋の有料化で、植物由来の素材を使用した袋が対象外とされたことを契機に、同用途向けの需要が増加したこと等があげられる。



ダイセルの酢酸セルロース



三菱ケミカルのPLAフィルム



東レの植物性PET合成繊維

出典:各社ホームページ

## ■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向

## ■ 本レポートの購読について

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。  
ご希望の場合は、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する経済レポートを全てご購入いただけます。  
なお、SVP会員になっていただきますと、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

[お問い合わせは、こちらをクリック](#)



資料請求

お問い合わせ

[SVP会員の方は、こちらをクリック](#)



会員サイト

## ■ 次回のテーマ

4月のテーマは、「スマートファクトリー」と「スマートテキスタイル」です。  
※また、本日は同時に「セルロースナノファイバー」についても公開。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール・・・毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

## [会社概要]

社名： 株式会社SVPジャパン  
代表取締役： 橋本 雅  
所在地： 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F  
設立年月日： 1974年7月1日  
事業内容： 会員制のビジネス情報提供サービス  
URL： <https://www.svpjapan.com/>

## [本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン デジタルマーケティング部  
[info@svpjapan.com](mailto:info@svpjapan.com)